



ウェルビー

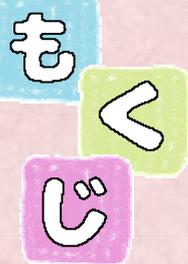
2016年1月 第25号

社会福祉法人 紀和福祉会

介護老人福祉施設 やまぼうし

住み慣れた場所を離れ、慣れない環境に打ちひしがれても、新しい環境で新しい生を取り戻して行くヤマボウシの姿に、介護高齢者が不本意にも自宅を離れて、施設で暮らすようになって、新たな場所で人生を豊かに生きていただきたい！
そういった想いを込めて、施設名にヤマボウシの花の名前をつけました。

2016年11月オープン!! (予定)



- 新年のごあいさつ 理事長
- 新年のごあいさつ 院長
- 介護老人福祉施設 やまぼうし
- 地域ボランティアと作る「交流広場」
- 「いのちについての法話会」
- お年寄りが詐欺に遭わない為に！
- 病院内のクリスマス&忘年会
- 連携室便り 地域の架け橋



医療法人南労会
紀和病院

〒648-0085
和歌山県橋本市岸上 18-1
TEL.0736-33-5000
E-mail: info@nanroukai.or.jp
<http://www.nanroukai.or.jp>

- 理事長/佐藤雅司 ● 院長/西口孝
- ベッド数 総病床数 212 床
一般病棟 87 床、地域包括ケア病棟 12 床
障害者施設等一般病棟 53 床、緩和ケア病棟 13 床
回復期リハビリテーション病棟 47 床
- 診療科目
○内科 ○呼吸器内科 ○消化器内科 ○循環器内科
○糖尿病・代謝内科 ○人工透析内科 ○内視鏡内科
○外科 ○消化器外科 ○脳神経外科 ○整形外科
○乳腺外科 ○静脈外科 ○皮膚科 ○神経内科
○疼痛緩和内科 ○麻酔科 ○放射線科
○リハビリテーション科

365日 年中無休救急体制

理事長 新年のごあいさつ



理事長 佐藤 雅司

新年おめでとうございます。

昨年は病院の機能評価の更新、療養型病院（伊藤病院）の立ち上げ、特別養護老人ホームやまぼうしの準備から着工と非常にタイトな1年で有りました。昨年10月に地域医療研究会大阪大会があり、当院からも多数参加しましたが、そのメインテーマは少子超高齢化社会に医療機関がどう立ち向かうかでした。

超高齢化社会に向けて医療介護の仕組みは大きく変わらなければなりません。

我が南労会の昨年の動きはその準備段階であったといえます。しかし、その中身は非常に濃いこともあって、昨年の後半はさすがにやや息切れ感はみられましたが、ぶれることなくまっすぐの方向を見ながら、新たな年を迎えています。

私たちの今年の課題は、昨年に築いた足場をしっかりと固めて、土台を作り上げる事です。できるだけ早い時期に療養型病院をより機能的に生かすようにします。今年末を目処に、特養老人ホームを動かし、高齢者になっても不安を抱かずにこの地で暮らしていける環境を作って行きたいと思っています。そして紀和病院急性期病棟を中心に、更にスタッフの充実を図り、急性期医療、慢性期の医療、介護に力を発揮していきたいと思えます。

今年も南労会・紀和病院グループをよろしくお願ひします。

院長 新年のごあいさつ

みなさま明けましておめでとうございます。
2016年は、この地域にとりまして当病院にとりまして大変重要な年になると思えます。

なぜかと言いますと、現在の日本では団塊の世代が後期高齢者(75歳)になる2025年の医療の必要性に見合った医療病床計画(地域医療構想)が、勧められています。国が言うように地域の実情に併せて、地域の人たちが安心健康にらせる医療提供体制を構築することがこの橋本医療圏にも求められています。2013年現在、この医療圏には急性期病床と呼ばれる今すぐ治療が必要な病床が529床あります。一方急性期をすぎて、リハビリをする為に入院する病床は、152床あります。

しかし、リハビリなどをしたけれども、なお自宅で生活するには困難な人たちを受け入れる病床が非常に少ないのが現状です。その人たちは、どうしているかという、大阪や、那賀医療圏の病院に入院させてもらうために大変な苦勞をしています。

お年をとって病気になり、まだ十分に回復できなくて、医療が必要な生活をしなければならないときには、自宅に近い施設に入院して療養生活を送るのが理想です。しかし現実には、自宅とは遠くに離れた施設に家族とは離れて療養することを余儀なくされているのです。それを避けるためには、なんとかしても家族の住んでいる橋本(伊都)医療圏に療養型の医療施設を確保することが必要です。幸い、2015年5月に伊藤病院が入院病床を廃止することになり、その病床を南労会グループに移譲して頂きました。この病床は56床ありますが、まだ十分とは言えません。更に、療養型医療病床が確保された場合、そこに入院される患者さんには、基礎になる病気があるので、肺炎や、転倒することによる骨折などの病気が起こりやすくなりますし、心臓や脳血管の病気が再発することもあります。その時には患者さん達は再び急性期に病院に入院することが必要となります。現在、国から示されているデータの解析から、伊都橋本圏外に流出している患者さんの数は340人、その人たちが急性期医療を必要としなることが多くなることが示されています。従って、慢性期医療病床を確保することは、ある程度の急性期病床を確保することを同時に進めなくてはならないこととなります。

このような状況を落ち着いて十分に検討することによって、地域の人たちが遠くで療養のために入院することのない安心安全な橋本医療圏の急性期、回復期、慢性期の病床を決める作業が行われなければなりません。

紀和病院は、本年、医師会、圏域内の病院、各自治体や県との対話により、このような枠組みを造れるように一生懸命努力します。圏域の皆様も、期待をしながらご協力いただけますようお願いいたします。



病院長 西口 孝

介護老人福祉施設 やまぼうし

新年あけましておめでとうございます。

地域住民の皆様をはじめ、地域の医療・福祉機関ならびに行政の皆様には、平素から、医療法人南労会の運営に多くのご協力お力添えを頂き心より感謝申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

本年は、かつらぎ町丁ノ町に「特別養護老人ホーム」を建設いたします。完成予定は今年の11月で、遅くとも来年の1月には「介護老人福祉施設「やまぼうし」」としてオープンできる見通しです。

施設の概要は、全100室のユニット型特別養護老人ホームと、同じく個室10室の短期入所生活介護施設です。「ユニット」は10戸（室）を1単位とした町内会のようなもので、顔なじみの介護職員とともに生活の場となります。このようなユニットが全部で10ユニット構成されています。

介護施設の設立は、医療法人南労会の念願でもありました。紀和病院と関連の介護事業所群は、これまで地域住民の皆

様が、住み慣れた地域や自宅での生活を支えるために努力を重ねてきました。しかしながら、様々な事情で在宅生活を継続できなくなることも決して少なくありません。加齢や疾病・障がいなどによって、身の回りの事ができなくなってきたり、自宅に住み続けるうえで、安全・安心な生活が脅かされる事態になることがあります。介護老人福祉施設「やまぼうし」の設立は、医療から介護への一貫した支援体制を構築する上でとても重要な課題でした。

「人権と尊厳の尊重」、「主体性・自己決定権の尊重」、そして「職員の幸福、地域の繁栄・・・」など、南労会の基本方針にも明記されている文言の一部ですが、「やまぼうし」の母体となった社会福祉法人「紀和福祉会」にも引き継がれていきます。これらの基本方針を具現化するために、設計、設備、職員体制、介護方法にわたって、現在も検討を重ねています。「やまぼうし」設立の経過や検討課題については、その一部をブログに掲載

しています。興味・関心を持たれ方は、一度ご覧になって下さい。

今後、紀和病院、在宅支援を中心とした介護事業所群、そして介護老人福祉施設「やまぼうし」、これらの紀和病院グループが、地域の皆様の健康と生活に貢献していきたいと考えています。皆様のご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

最後に、現在「やまぼうし」のオープニング・スタッフを募集しています。紀和病院グループの一員として、共に働いて頂ける方、ぜひ一度お問い合わせ下さい。採用条件等、詳しくご説明させていただきます。



介護老人福祉施設「やまぼうし」開設準備室のブログ <https://kiwakaigo.wordpress.com/>

募集職種：介護職員、管理栄養士、看護師、保育士

お問い合わせ先：医療法人南労会 紀和病院内

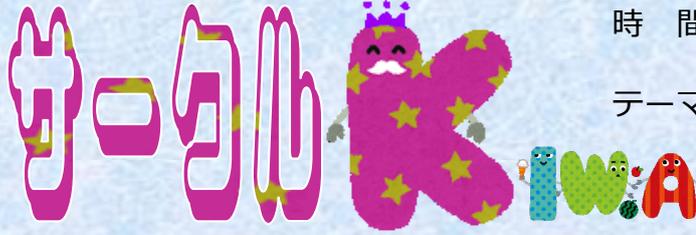
介護老人福祉施設「やまぼうし」開設準備室（山浦・高木）

電話番号：0736-34-1317(代表)



地域ボランティアと作る 交流広場

～ さーくるきわ ～



●—「交流広場」とは—●
紀和病院では、地域とつながりを持ち、出会いを大切にしたい絆を「患者さん」「地域のボランティアさん」「病院職員」で紡ぐ交流の場「サークルKIWA」を年3回ほど開催していきます。
地域の方もご参加いただけます。(無料)

●————— 要 項 —————●
場 所 紀和病院4階
 ウェルビーホールなど
時 間 14時～15時内
 30分程度(応相談)
テ ー マ 演奏会、紙芝居
 マジックショーなど
 (応相談)

お問合せ：経営広報企画室 ボランティアコーディネーター
電 話 0736-34-1317 (代表)
E-mail info@nanroukai.or.jp

第1回 地域ボランティアと作る「交流広場」 サークルKIWA

「いのちについての法話会」を開きました

【開催日】2015年12月11日(金)

【講 師】天照山 弘徳寺

ご住職 小田地弘 師

(高野山真言宗総本山金剛峯寺壇上伽藍主任)

仏教のお話に始まり、誰もが実感する「四苦」と「八苦」の言葉の深さや、「罰が当たる」「仏の顔も三度まで」といった言葉にまつわるお話。子どもがお母さんの胎内に宿っている時から、「命」として年齢に加える「数え年」の考え方など。参加された方たちと笑いあり質問ありの楽しい時間でした。貴重な時間をありがとうございました。



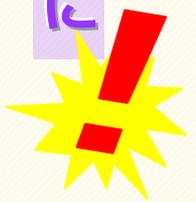
またリコーダーの演奏も聴かせてもらい楽しい時間を過ごしました。

『心配する親心を巧みに利用して、お金を要求するなど他人事ではなく、誰もが被害にあう危険がある』と利用者さんも真剣に聞いていました。

またリコーダーの演奏も聴かせてもらい楽しい時間を過ごしました。



お年寄りが詐欺に
遭わない為に



西部小学校の6年生が「総合的な学習の時間」でデイサービス春林館を訪問してくれました。

子どもたちは詐欺について、詐欺の種類や手口、予防法を劇や紙芝居にして伝えてくれました。

病院内の クリスマス&忘年会



各病棟でクリスマス&忘年会を開催しました。

ツリーやガーランドの飾りつけ。サンタさん、トナカイの登場。病棟が一気にクリスマスの雰囲気！

スタッフによるハンドベル演奏、ボランティアさんによるアコーディオン・バイオリン演奏や腹踊りなどが行われ、入院患者さんと楽しいひと時を過ごしました。

1階東病棟では、入院患者さんがスタッフと一緒にハンドベルを鳴らし「夜空ノムコウ」を奏でました♪

地域連携室便り

鎌田医院

鎌田医院は大正15年10月17日現在の五條市西吉野町十日市に鎌田三郎が開設し、私で3代目になります。この間、西吉野町城戸に本拠地を変え、父達雄が平成4年に西吉野町賀名生に本院を移し、平成24年4月五條市田園3丁目私勝三郎が新たに田園診療所を開設しました。

現在、賀名生と田園の2ヶ所で開業しております。思えば時代と共に都市部への人口集中が進む中、我々も医院の場所を転々とする必要に迫られたのだと思います。

祖父は産婦人科医として開業し、父は放射線科・内科医として受け継ぎました。私は元々循環器を中心に診療しておりますが、今は家庭医として日々診療しています。賀名生診療所では、内科を中



賀名生診療所

TEL 0747-32-0525

奈良県五條市西吉野町屋那瀬 13



院長
鎌田勝三郎先生

心に一般的診療といえますか御用聞きのような診療、医療相談、在宅医療などが業務の中心となっております。これからは何も急にそうしたわけではなく、昔からそうやってきたし、今後もそうあるべきだと考えています。ただ、言葉だけが、国の施策に伴って弄ばれているだけで、敢えて自分の言葉を使わせて頂くならごく普通に当り前の医療サービスを展開していると言うのがしっくりきます。田園診療所でも基本的に、賀名生診療所と同じですが、乳腺外来・婦人科外来を設けています。

地域の 架け橋

田園診療所では私の旧知の仲である梅村先生と横谷先生に乳腺を担当して頂いております。婦人科は、奈良医大の先生や滋賀の入江先生にご協力頂いております。

我々内科医ではどうしても踏み込むのが困難な乳腺と婦人科の医療を五條の地に築くことは私の悲願でもありました。



田園診療所

TEL 0747-26-1150

奈良県五條市田園 3-11-10

こうした人事交流は今後のスムーズな病診連携に有効に機能するだろうと考え、私自身も火曜日に紀和病院で当直させて頂いております。スムーズという表現は、スピードと正確性・細部にまで拘るきめの細かさという意味を込めています。

今の時代に当地域で求められる医療とは様々な需要に細かく対応できる医療ではないかと思うのです。加えて、紀和病院に求められている医療圏はかなり広範囲で、奈良県南部をカバーして頂きたいと思っております。これだけの広域で且つ少しずつしかない需要に 대응していかなければなりません。隙間を埋める医療という言い方もできると思います。より広範囲に、よりスムーズに他の医療機関・医療スタッフと連携しながら隙間を埋めていく医療が求められています。紀和病院は今後も地域で暮らす皆様のため、私達と一緒に隙間を埋めてスムーズな病診連携所連携を進展させて頂ければ幸いです。

(本文は院長 鎌田勝三郎先生よりご寄稿いただきました。)